

2023年夏期開催

Waffle Camp ホームタウン

開催レポート

はじめに

女子およびジェンダーマイノリティの中高生を対象にIT教育プログラムの提供とキャリア支援を全国的に行う「Waffle Camp ホームタウン」を2023年7月から9月に全国11都市（北海道札幌市、千葉県印西市、神奈川県横浜市、福井県、長野県駒ヶ根市、京都府京丹後市、兵庫県、兵庫県豊岡市、徳島県徳島市、長崎県長崎市、鹿児島県）にて開催し、108名の生徒が参加し、全体満足度は平均4.79(5点満点中)を獲得しました。

受講者からは、「進路の選択肢が増えたとし、将来へのワクワクが増えました!」「苦手な分野だったのですが、この講座を受講し少しだけ自分に自信がついた!メンターさんたちが優しく教えてくれて嬉しかった!」「初めてだったけどとても楽しかった!IT分野に興味を持てた!」といった声をいただいています。

Waffle Camp ホームタウン開催の背景

Waffle Camp ホームタウンは、開催地域の中高生を対象に1日でhtml/CSSを用いたWebサイト制作を体験してもらう無料講座となっています。IT分野のキャリアをイメージできるよう、ロールモデルとして現役の女性エンジニアによるキャリア講演をプログラムに組み込んでおり、IT分野への進路支援を意識したプログラムを提供しています。

Waffleは、「IT・理系への苦手意識をなくし、関心を高める」ために2020年より「Waffle Camp」を開始し、2022年からは、今までITに触れる機会が少なかった中高生にも、広く興味を持ってもらう機会が重要だと考え、その趣旨に賛同する企業の協力の元、日本全国で「Waffle Camp ホームタウン」を無償にて開催しています。これまでに、360名超の中高生が参加し、参加者のプログラミングの関心度が向上したり、将来の理工系・IT系への進学希望

者が約3倍に増加するなど、IT分野のジェンダーギャップの解消と中高生のキャリア支援へ貢献しています。

Waffle Camp ホームタウン開催概要

開催期間：2023年7月1日～2023年9月30日

参加費：無料

参加対象：開催都市に居住地がある女子及びジェンダーマイノリティの中高生

内容：1日あるいは2日間でHTML/CSSを使ってオリジナルのウェブサイトを作成します。また、現役の女性エンジニアによる「ロールモデルとの対話」を組み合わせており、参加者のIT分野への進路選択も支援いたします。

2023年度の取り組みについて

本年度は新たな取り組みとして、メットライフ生命保険株式会社様、デロイト トーマツ グループ合同会社様より、当日の会場を提供して頂きました。兵庫県と長崎市のWaffle Campはメットライフ生命保険株式会社様の会場で、福井県のWaffle Campはデロイト トーマツ グループ合同会社様の東京オフィスをお借りしての開催となりました。参加者は社員の皆さまの働いている姿を直に見ることができた上、最新設備の整った会場での受講となりとても良い経験となりました。

開催結果

前年度同期（2022年夏期）に比較して、参加人数が約4割増加となり（2022年夏期：78名）、また参加した自治体の数も7自治体から11自治体に増えました。このうち、札幌市と福井県は2年連続の開催となり、横浜市においては2021年度以来3年連続での開催となりました。徳島市は2021年度以来2度目の開催となりました。

開催参加者について

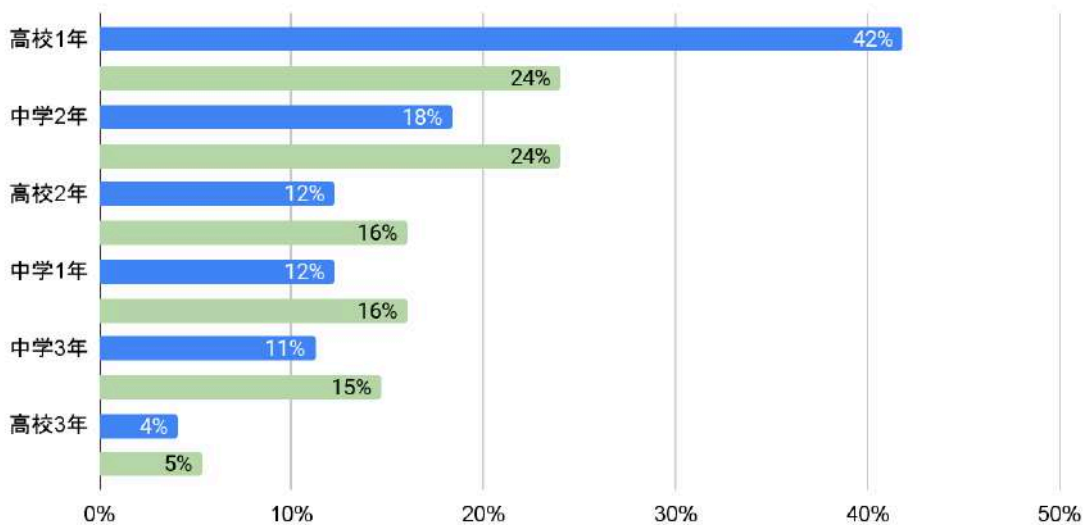
参加者の比率は中学生・高校生ではほぼ同等

約2か月にわたり全国11都市で開催されたWaffle Campホームタウンプログラムには延べ108名の女子中高生が参加しました。高校生が参加者全体の58%を占めており、学年別に見

ると高校1年生が多数（全体の42%）となっています。この理由として福井県では県の事業として高校1年生を中心に募集をかけたことが挙げられます。福井県の高校1年生を除外した場合は高校生、中学生の割合がほぼ同じくらい（各45%、55%）となります。また学年別では高校1年生と中学2年生の全体に占める割合が同じくらい（福井県の高校1年生を除くと、各24%）となります。また、高校2年生、中学1年生、中学3年生も全体に占める割合が同じくらい（福井県の高校1年生を除くと、各16%、16%、15%）となっています。

学年別の参加者の割合

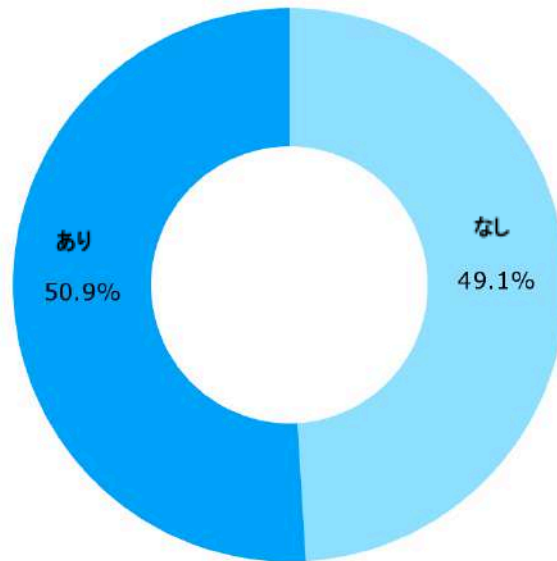
（緑の棒線は福井県の高校1年生を除いた場合）



参加者のプログラミングスキルは経験者・未経験者が同割合

事前のアンケートの結果を見ると、プログラミングの経験（スクラッチ、JavaScript、Python、マイクラフト、HTMLなど）については経験者と未経験者の割合がほぼ同じとなっています。また、コンピューターの使用頻度については全体の72%がほぼ毎日か週に1・2回は使用すると回答しており、コンピューター操作に慣れ親しんでいる参加者が多数を占めています。

プログラミングの経験について



保護者や学校の先生がWaffle Campホームタウンへの参加のきっかけ

Waffle Campホームタウンに参加するきっかけとしては6割以上の参加者が保護者または学校の先生に勧められて参加しています。また、6割の参加者は今まで学校外でのイベントには参加したことがないと回答しています。さらに、学校外のイベントに参加したことがあっても、IT・プログラミング関連のイベントに参加したことがあるとした回答者は僅か8%となっています。アンケートの結果から保護者や学校の先生の理解と協力が欠かせないことがうかがえます。

Waffle Campに参加するきっかけ

| | |
|---------------|-----|
| 保護者に勧められた | 37% |
| 学校の先生に勧められた | 26% |
| SNS、チラシ、説明会など | 20% |
| 自分で見つけた | 10% |
| 友達に誘われた | 7% |

学校外で参加したことがあるイベント

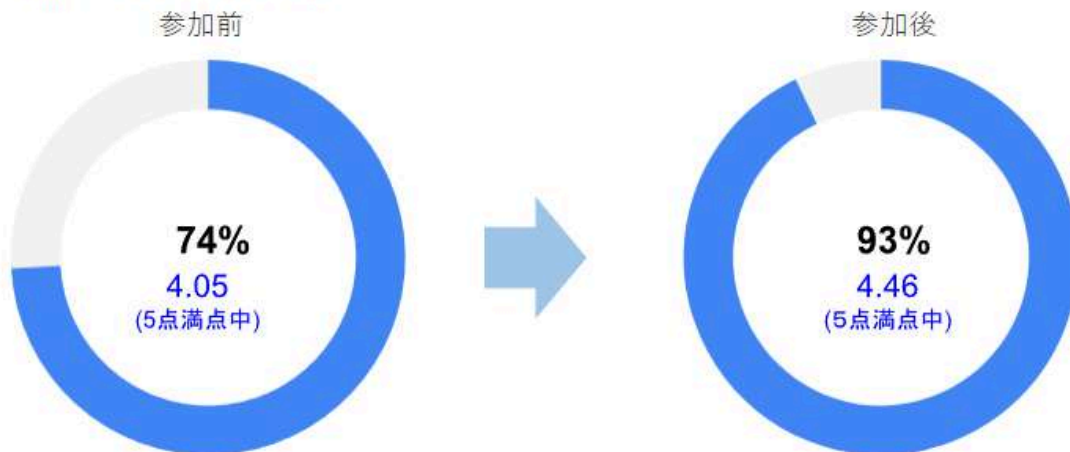
| | |
|--------------|-----|
| 参加したことがない | 60% |
| ボランティア | 18% |
| IT・プログラミング関連 | 8% |
| 進路・文理選択系 | 7% |
| SDGs関連 | 6% |
| 多種多様なイベント | 1% |

示唆

プログラミング・理系への進路についての興味の変化

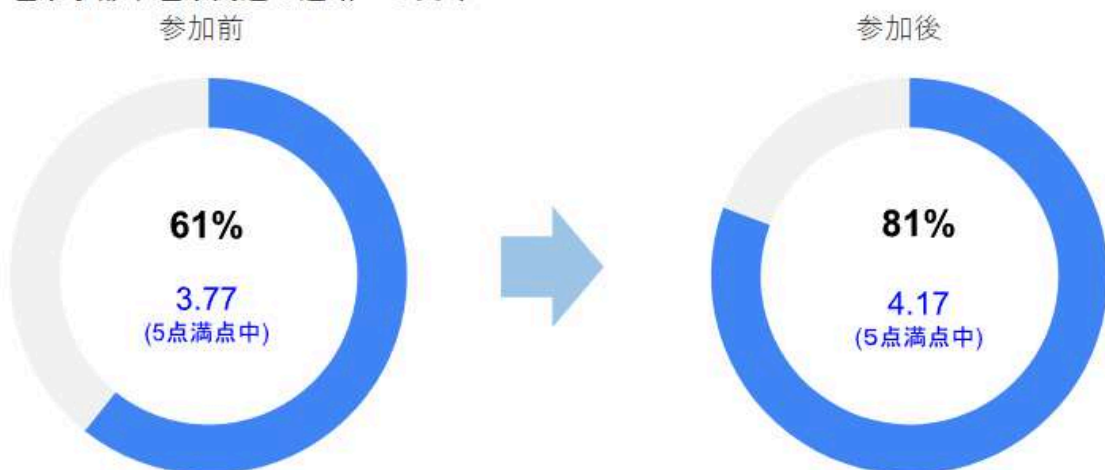
プログラミングへの興味、理系学部や理系関連への興味の変化に関してアンケート調査を実施したところ、参加の前後で2つの項目で、5段階評価（1=全く興味がない、5=とても興味がある）で興味の向上という結果を得ました。参加前はプログラミングへの興味があるとした回答者は74%だったのに対して、参加後は93%に増えています。また、5点満点中参加前は平均4.05でしたが、参加後は平均4.46と10%向上しています。

プログラミングへの興味



理系学部や理系関連への興味に関しても参加後には変化が見られます。参加前は理系学部や理系関連への興味があるとした回答者は61%だったのに対して、参加後は81%に増えています。また、5点満点中参加前は平均3.77でしたが、参加後は平均4.17と11%向上しています。

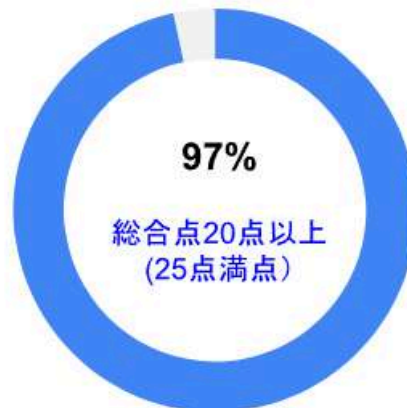
理系学部や理系関連の進路への興味



将来どのような勉強または仕事をしたいかという問いに対して記述してもらったところ、受講後は理工学・IT系の勉強または仕事を希望していると回答した参加者は全体の46%となりました。そのうちの30%は受講前は理工学・IT系以外の勉強または仕事に興味があると回答

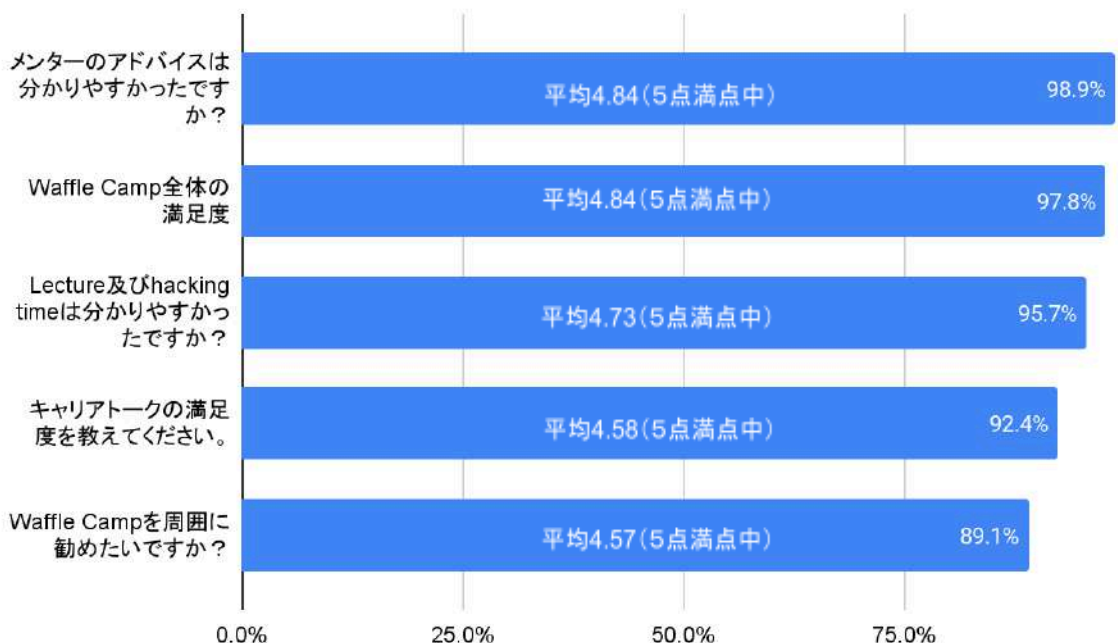
Waffle Campホームタウンの満足度に関する質問5問に関して、5段階評価（1=満足していない、5=とても満足している）で参加者に回答してもらいました。全5問全ての合計から（25点満点）満足度を算出したところ、参加者の97%が総合点20点以上（各質問平均4点以上/5点満点中）となり、全体の満足度が高いことがわかりました。

Waffle Camp満足度に関する5つの質問の総合点より算出（横浜市除く）



さらに満足度に関する5つの質問に対して個別の評価では、5段階評価で4以上と回答した参加者の割合はいずれの質問も概ね9割以上となっていますが、メンターのアドバイスの分かりやすさに関する質問には参加者のほぼ全員が分かりやすいと回答しています。

満足度に関する5つの質問に対する個別評価（横浜市除く）



参加者の声

Lectureやメンターのアドバイスで良かった点として、「アドバイスが的確で分かりやすかったです。」「みんな優しく、困った時にすぐに駆けつけて教えてもらってよかった。」「メンターさんがチャットでの質問だったのにもかかわらず、こちらの意思を正確に汲んでくださったのでとても嬉しかったしありがたかったです。」「何か質問されても安易に答えるのではなく、まず自分たちで調べさせているところが良いと思いました。」と回答しています。

キャリアトークに関しては、「数学が苦手でもエンジニアになれると聞いて驚きました。」「大学卒業後の進路変更をされる人も多く、やりたいことをすることの大切さを学ぶことができた。」「文系（出身）のエンジニアが多いことに驚いた」「ITは難しいイメージしかなかったけど、中でも色々な人がいて、色々な生き方ができると知れてよかったです。」といった声があり、今まで参加者が抱いていた理系へのイメージや考え方にインパクトを与え、変化をもたらした要因となっているようです。

まとめ

以上の結果からWaffle Campホームタウンのインパクトをより高めるためには、プログラミングやコーディングの未経験者や、理系への興味があまりない女子中高生の層にどれだけ抵抗感なく参加してもらうかが鍵になるものと思われます。そのためには、まず保護者や学校の先生にWaffle Campホームタウンを理解してもらうような働きかけが重要なポイントだと考えております。本講座開催前に保護者（PTA含む）や学校関係者に説明会を開催している自治体がありました。今回は京丹後市と鹿児島県がWaffle以外の団体のイベントも含めた保護者向けの講演会を開催しており、両自治体の講演会に参加した保護者や学校関係者は合計約150名となっています。

Waffleではキャリアトークへの登壇者の適切な人選はもちろんのこと、講師・メンター陣のクオリティーの高さを維持するよう、IT系のキャリアに興味がある女子大学生・院生向け研修「Waffle College」の活動にも力を注いでいます。Waffle Collegeでは所属する学校や学部、文系・理系にとらわれず、プログラミングを学んで自分らしいキャリアを築きたいという学生のためにエントリーコース（2週間）とキャリアテックコース（8か月間）の2コースを提供しています。両コースとも参加費用は無料となっています。Waffle Campホームタウ

ンのメンターはエントリーコース修了生から選抜してトレーニングを実施し、Waffle Campホームタウンに派遣しています。今回はWaffle Collegeの卒業生と大学生インターン26名のメンターが参加しました。

また、Waffleでは常に業務プロセス改善を意識して次のWaffle Campホームタウンに反映出来るように努力しており、より良いプログラムとなるようにスタッフ一丸となり運営していく所存でございます。

メディア掲載情報

Waffle Campホームタウン開催について、多くのメディアで取り上げていただくことができました。

| 自治体 | メディア名 |
|------|-----------------------------------|
| 札幌市 | 北海道新聞 |
| 駒ヶ根市 | 信濃毎日新聞 |
| 福井県 | 毎日新聞 福井新聞 |
| 京丹後市 | ACTV京丹後局 |
| 兵庫県 | サンテレビ |
| 徳島市 | 日本経済新聞 |
| 長崎市 | 長崎放送 長崎国際テレビ 長崎新聞 長崎文化放送 |
| 鹿児島県 | 南日本新聞 |

協賛企業のみなさま

本講座の開催にあたっては以下の企業様にご支援頂いており、Waffleスタッフ一同、心から御礼申し上げます（敬称略、順不同）。

スペシャルスポンサー

- ・メットライフ生命保険株式会社（<https://www.metlife.co.jp>）
- ・グーグル合同会社（<https://g.co/grow/education-cs>）

プラチナスポンサー

- ・デロイト トーマツ グループ合同会社（<https://www.deloitte.com/jp>）

ゴールドスポンサー

- ・ヤフー株式会社（<https://about.yahoo.co.jp/>）

シルバースポンサー

- ・サイボウズ株式会社（<https://cybozu.co.jp/>）

以上